＜記念講演＞

「学校における働き方改革について考える」

埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター

教授　安　原　輝　彦　氏

１　はじめに

皆様、こんにちは。

今日は、こういうテーマですけれども、あまり深く考える必要はないと思います。最後が「考える」ですから、働き方改革の処方箋を持ってきたわけではありません。こうすれば、学校が変わるんだというのをご期待された方は、ちょっと期待外れになるかなと思います。今日は、そうじゃなくて考えましょう一緒に。

只今、過分なご紹介をいただきました。決して温かく優しい人間ではなくて随分酷いことをやってきたなという反省ばかりの現役時代でした。校長・教頭の職は、教頭も校長も２年しかやっていません。僕は学術研究者ではないので、それほど理論的なことは言えませんが、自分がいろいろ体験したり、経験したり、あるいは失敗したりしたことを研究者の先生と一緒に理論化していくみたいなことをしていました。

どうですか、皆さん、学校は大変ですか。働き方改革､今は､国も各自治体もいろいろ言っていますけど、うちの学校、そうだなという方がどちらかというと多いですかね。ちょっと聞いてみたいんですけど。午後６時には、誰も居ませんという学校、朝は７時半前までには誰も来ませんという学校ありますか。

２　教師のスタンスを見直そう

まず、次に挙げるものの内、共通するものは何か。わかったら手を挙げてほしいんですが。

①『二十四の瞳』　映画、1954 年、まだ僕は産まれてないんです。皆さんもそうかなと思うんですが。

②『青春とはなんだ』 1965 年から 66 年のテレビドラマ。

③『これが青春だ』　その次に出てきた青春シリーズドラマ。このあたりは、校長先生方ですとご存知の方もちらほら出てきますかね。

④『でっかい青春』　⑤『進め青春』ここぐらいまでがテレビドラマですが、ここまでで共通するものが何かわかりますか。

1978 年･80 年に熱中時代というテレビドラマがありました。40.0％の視聴率でした。

次、『３年Ｂ組金八先生』知らない人、いない。視聴率は､やはり 40％近く｡ほぼ 10 人に４人じゃなくて、観ている世代からほぼ、当時の中学生とか、或いは、我々教員をなさっていた方もいるかと思います。

それから､『スクールウォーズ』『教師ビンビン物語』『醜いアヒルの子』この辺は､逆に観なくなりますか。これも 1996 年ですから､皆さんはもう充実した時期で、非働き方改革真っただ中、ほとんどテレビを観る時間がないという時ではなかったですかね。

『ヤンキー母校に帰る』『ゴクセン２』これは、2005 年、すごい視聴率 32.5％。あれだけチャンネルがたくさんある時代、これだけの視聴率です。

さあ、共通するテーマは何でしょう。あまり真剣に考えてもしょうがないんですけど。

これ、非働き方改革ですよね。このドラマに出てくる先生達は、非働き方改革の先生方です。実は、僕もこの中の幾つかには反発をしたり、憧れたりして教員になった一人です。もともと教員は、こういうものだというイメージを作られた人間ですから。あの時代、先生って、こういうものなんだと僕たちは観ていたんです。視聴率の高いドラマが作り出す暗黙の教師像。日本人の 75 歳から 30 歳前半までの方達が描く教師像は、先ほどのドラマ・映画の影響は大きいんです。

３　教員ってどんな人たち、ミッションは

まず、教師自身がもつ教師像はどうでしょうか。

教師自身が残業を前提に考え、先生達の中には残業が当たり前だと考えている人がいるかもしれないです。残業は悪だと考えている先生の方が僕は少ないのではないのかなと思います。何故ならば、こういうドラマを観て育ってきているんですから。逆に、きちんと７時間４５分で帰ると罪悪感をもっている先生がいるらしいです。ムカッとくる先生もいるらしいです。だから、働き方改革は非常に難しいです。

教員自身のまず問題。次に、保護者や子供たちが、描く教師像もやっぱり、さっきと同じなんです。

７時間 45 分でサッと帰る先生、「わあ、素晴らしいわ」と褒めてくれる保護者たくさんいますか。

それから、地域や一般社会、保護者の方を含めて、子供のための自己犠牲を厭わない存在であると。何か交通事故があったとか、或いは不審者が出たとか、通学路で何かあった時に一般社会の人達は認めてくれるでしょうか。「先生はもういいですよ。労働時間過ぎているんですから早く帰ってください。先生、何残っているんですか。困るんじゃないですか働き方改革でしょ」って、言ってくれる人どのくらいいますかね。

こうなると教職は、聖職（聖なる職業）という意識が強いんです。ブラックな職場にならざるを得ないでしょ。『これが青春だ』だからです。『すすめ青春』だからです。まず、校長先生方は、こういうものと闘わなければいけないのかなと。或いは、学校の先生自身が、こういうことを自覚できるかどうかというところが出発点のような気がします。

まず、冷静に自分たちのスタンスを見てみようということから始めないと、考え方は変わりません。教員の働き方改革について考える前に、そもそも教員ってどんな人達なんですか？　教員のミッション、どんな仕事をしているのか、何が中心の仕事なんですか。教員として働いていることを支えているもの、教員一人のモチベーションは何か。これらのことを教員同士が議論できるか。これができないと、何かを変えるということはすごく難しいような気がします。

勤務実態調査（文科省）「過労死防止白書（2018 年版）」　勤務時間週 60 時間以上の「教諭」の率から、小学校 33.5%、中学校 57.7%。１日の平均勤務時間、11 時間を過ぎています。副校長・教頭 12 時間 33 分。校長先生方、家に持ち帰っているでしょ？書類は持ち帰らないけど、課題は持ち帰って晩酌やりながら、あれどうしようかなとか考えているでしょう。

残業を月45時間で年間360時間以内にしないといけないでしょ。月 45 時間ということは、４で割ると１週間 10 時間、１週間 10 時間を５で割ると、１日約２時間。２時間越えて残っている職員がいたら、アウトです。例えば、勤務開始時刻を８時としたら、休憩時間 45 分・１時間取ったとして、４時 45 分ですか。２時間足すと、７時にはどこの学校も誰も居ないというふうにしないと法律違反になるんでしょ。

４　教師が負担に感じていること

教員に聞いた文科省の実態調査です。教員が負担に感じていること、小学校も中学校も国や教育委員会からの調査やアンケートの対応が一番負担だというんです。小学校の２番目は、研修会や教育研究の事前レポートや報告書の作成だそうで、研究会が嫌ではなく、報告書・レポートは嫌だと言っているんです。

中学校は、保護者・地域からの要望・苦情等への対応です。小学校には、これが３位にきて中学校の先生は、３番目に研修会や教育研究の事前レポートや報告書の作成がきています。

５　一般の企業と比べてみて

教師という職業人の特徴を考えてみたいと思います。ここを知らないと働き方改革のコツがずれて、先生方に指示ばかりしてうまくいかないんです。先生ってどんな人間だか、いろいろ考えてみました。

まず、原則、保守的。４月の職員会議で例年どおりが多くないですか。「子供が毎年違うんだから、スタッフだって変わるんだから全然違うことをやりましょう」って言ったら、周りの先生方から拍手が沸く学校は、すぐ働き方改革できます。次に教員免許状を持っていなければできない専門職ですから、非常に個人的な自分のペースを守りたい人が多くないですか。

それから、皆「先生」と呼ばれ、フラットな関係です。校長先生・副校長先生・教頭先生・主幹教諭、全部先生。大学を卒業する３月 31 日まで学生だったのに、４月１日になったら先生と呼ばれるんですよ。不思議な世界ですね。また、給与・昇給にさほど意欲をもたない。こういう人達が集まる世界なんですよ。ほぼ全員、大学卒ですよ。こういう職場って、一般企業の中でも少ないです。ほぼ全員、学歴は大学卒業。話せばわかる人達ですよ。

そして、ここが特に難しい点ですが、先生と児童、先生と生徒が特別権力関係にあり、自分の価値観が絶対だと思っている先生がいます。スカート丈、膝上は許さないとか、膝上５㎝までとか。自分で決められるんですよ。だから独善的になってしまう。こういう先生は、自己の経験に基づく指導をします。大体先生というのは、私は違いますけれども、小学校時代・中学校時代、優秀だったはずで優等生に近いはずです。先生によく頼まれたり、リーダーになったり、学級委員をやったり、生徒会に出たり、修学旅行委員になたりとか、結構やっている子が多い。そういう人達の集まり、倫理観が高くまじめです。

それから、議論をしたがらない。日本人って多くは同質社会の中にいますから、言語的には苦労しないのに議論はしたがらない。ちょっと意見したら次の学年会で、あいつの言うことは聞かないとかね、そうなったら働き方改革できないですよ。

これが、教員の特性です。さらに、成果がなかなか数字にでない。目に見えない。知・徳・体ですから。

６　教師自身が働き方改革を阻んでいないか？

【働き方改革の壁】

皆さん、働き方改革の壁って何ですか。

１つ目、同じ学年、同じ教科の教材をそれぞれ独自に作成して、お互い融通し合わない。特に小学校では。僕は社会科担当ですから、地歴公で、地理的分野は安原先生ね、歴史分野は田中先生ね、公民的分野は齊藤先生ねってやれば、仮に３年ごとに同じ教材を作っておけば、後は時代の流れで、若干変えればいいわけで、1/3 で済むじゃないですか。小学校で校長になったときびっくりしました。３年生の３クラスの道徳の授業を見てみたら、１組・２組・３組、だいたい同じ時間に同じ題材を使ってやっていました。でも、ペープサートは違うし、黒板に貼る資料は違うし、発問の順番も違っていました。それぞれのクラスでわざわざ、独自に教材を作っている。

例えば、１学期の分は１組の先生が作り、２学期の分は２組の先生が作り、３学期の分は３組の先生が作ればいいじゃないですか。皆が作れば 1/3 の労力で済むじゃないですか。

僕なんか、常に楽しようと思っていたので、どうしたら楽ができるか考えていました。でも、一般の先生は違うんです。「先生の授業、この単元のこの題材つまんなかったからこう変えましょうよ」と言われるより、自分で作って誰にも見せない方がいいと思っちゃう。

２つ目、学校を見ていて、学級目標、学習目標、生活目標が教室に貼ってあったり、ノートにいっぱい書いてあったりしますか。全部達成していますか。先生は達成度を全部チェックしていませんよね。何で目標が好きなんだろう。目標の達成評価をしないで改善できますか。だから、毎年同じことを繰り返してやっているんですね。

３つ目、先生方、連絡帳・生活記録ノートなど何かしらのノートを毎日抱えて、コメントを書いていませんか。どのくらい効果がありました？　やっぱり、一言一言書いていたから、今やノーベル賞学者になっていますか？　君の学習のやり方は素晴らしいとか、よく頑張ったねって書いたから、今や日本を代表する人とかになりましたか。僕も最初は書いていたんですけど、効果がないということがある時、気付いて止めました。子供もちゃんと評価しています。「また、同じこと書いている。もっと、違うことを書けよ」とかね。

そこで、１週間に１列ずつにして、毎日、５・６冊書けば終わり。そうしたら、ものすごく文が長くなってきて子供たちも私も書いていました。それも面倒くさくなってきて止めました。これ、自分の自己満足だということに気が付いたんです。これを書かなかったらもっと酷いことになっていたという言い訳を自分で作っていたんですね。

４つ目、学習規律・生活ルーツにはすごく厳しいけど、学力とか学習の定着には甘い。学習規律を身に付けないと学習はちゃんとできないと考えているんです。だけど、学習規律が身に付いているんだから学習ができないはずはないとは考えない。楽しくわかる授業をすれば、子供って態度がよくなりませんか。「先生ね、今日こういうのを持ってきたんだ」って興味のあるものを見せたら黙っていても、子供たちは「何？何？何？」って向くじゃないですか。それを、教室に入っていって、「今日は教科書 65 ページ開いて」。つまんないから、わいわいざわざわしますよね。そういう違いって結構あります。簡単に今５つ書いてありますけど。

【働き方改革の壁２　皆さんの学校は？】

①同じ学年、同じ教科の教材をそれぞれ独自に作成（融通し合わない）→（協働、分担できないの？）

②学級目標、学習目標、生活目標、班目標、個人目標・・・目標だらけ→（絵に描いた餅状態）

③連絡帳、生活記録ノートを毎日学級の全員に一言記入→教師の自己満足（負担の割に効果薄？）

④学習規律や生活ルールには厳しいのに学力・学習定着には甘い→（学習規律が身に付いているのだから学習ができないはずはないと考えない）

⑤学習規律や学習態度が整わないと授業が成立しないと思い込んでいる→楽しく、よくわかる授業であれば学習態度もよくなるという発想に至らない

この中で、２つ当てはまる先生がいたら、その先生の働き方を改革するのは大変でしょうね。

次に僕が、４つ挙げるうちの１つでも当てはまらなければ働き方改革はできますよ。

①指導方法、教材研究、生徒指導観など教職の専門性の議論を避ける→学びを仕事とする先生が、よりよい学びを求めて同僚と話し合ったり、議論したりすることを避けている学校は学びの場と言えるか？

言えないですよね。だから、働き方改革ができない。

②担任王国の学習指導、生活指導、生徒指導から脱却できない→完璧な担任はいない。新任がベテランと同じ達成度であるわけがない。体調不良もあれば、家庭の事情もあり、皆でオープンにできるかどうか。

③部活動では勝利主義、学習評価は平均点主義、仕事評価は時間量主義→学習指導要領を読めば部活動は、生徒の自主的・自律的な活動ですから、それを支える先生であれば、働き方改革できます。また、平均点を気にしている先生、１組 53 点、２組 56 点、３組 61 点、俺のクラスはよくできる。よく見たら、０点もいれば 100 点もいるんです。子供の顔や声に目

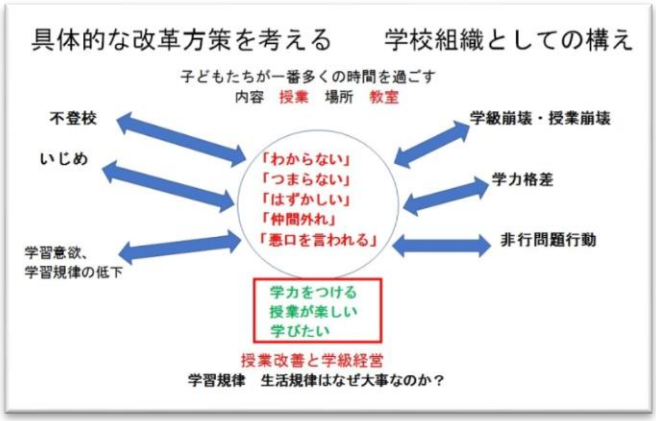
と耳を傾けない独りよがりですからこういう先生は。
④愚痴や苦労があいさつになっている学校
→「先生、昨日も大変だったのよ」と言っている学校は、働き方改革できません。「先生、昨日大変だったでしょう？」「何がですか。特に、全然大丈夫だよ」っていう学校はできます。改善しよう、変えてみよう、やってみようという前向きなあいさつができれば OK です。
つまり、改善や改革の機運が育たない職場では働き方改革は絵に描いた餅になっちゃうんですよね。

７　どう考えますか？【演習１・演習２】

これをやってみましょう。　どう考えますか？
学校教育活動を担う教師として、子供たちに様々な力や態度をつけてもらいたいと願う毎日ですが、Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅで順位を付けるとしたら、一番力を付けてあげたい力はどれですか。
Ａ　学力（授業が分かる、授業についていける）
Ｂ　仲間を思いやる気持ち（優しい子）
Ｃ　学習規律（学習習慣）できてる子
Ｄ　生活規律（生活習慣）がしっかりしている子
Ｅ　健康生活（元気な子）をしている子
あえて順番を付けると。決まりましたか？
Ａの方、Ｂの方、Ｃの方、Ｄの方、Ｅの方　ありがとうございます。Ａ・Ｅ・Ｂの順でした。
今度は逆。学校教育活動の主体者である子供たちに順番を付けさせたら、子供たちはどんな力を自分が一番付けたいと思っていると思いますか。
学力のＡの方、友達思いの優しい子になりたいんだのＢの方、あら、いない。じゃ学習規律のＣの方、Ｄの生活規律の方､健康な元気な子になりたいのＥの方、さすが、校長先生、素晴らしい。これはニュージーランドの研究です。
これをみてください。一番左の棒グラフが　児童生徒自身､２番目が保護者､３番目が皆さん校長先生で、４番目が教員です。これ、学力に関して聞いたんですけど、学力には何が一番影響するのかという質問で、要は子供が何と答えているか、学力は自分の責任だと答えている子は９％なんです。保護者がお前ができないからなと考えている人は同じく９％。校長先生方管理職は、この地域の子供たちは学力が低いなど、子供の理由としている管理職は 19%。教員は 58%。子供が一生懸命取り組まないと学力は伸びないよと思っているのが、一番高いのは先生です。
次に真ん中の塊が、「教師と児童生徒の関係」で、
学校の先生が、教師と児童生徒の関係が大事だと考えている児童生徒が 81%で、子供たちは、先生とうまくいけば学力は伸びると思っているんです。保護者も子供と同じように 71%と高い。校長先生は 46%で、一番低いのは 27%で先生です。教師が一番、子供の学力に影響を与えていると考えているのが、一番低いのが先生です。これは、ニュージーランドの相対的に学力の低い学校で調査をした結果です。先ほど、先生方に手を挙げてもらいましたが､Needs と Want がマッチするかどうかというのはすごく大きいんです。子供たちは、学力を伸ばしたいと思っているんです。ところが学校の先生は、あんた達はもともと、やる気がないんだったらできる訳ないじゃないかと思っています。

８　具体的な改革方策を考える

具体的な改革方策を考えるときに、あれもこれもやっては駄目です。どこに教員たちは力を入れなければいけないのか､教員たち自身が本来は議論してほしい。
私がいつも言っているのは、学校の中で、一番多く時間を過ごしているのは授業です｡ここがヒントです。ここを変えなかったら、ここを安定させれば、多分、先生の働くエネルギーもすごく焦点化していくはずです。実は、この図の真ん中が子供です。



「わからない」、「つまらない」、「はずかしい」、「仲間外れ」、「悪口を言われる」これを子供たちはすごく気にしています。教室の中で過ごすとき。ここから周りの教育問題が始まるわけです。原因は、この中のどれかですよ。この子供たちはびくびくしながら教室に来るわけです。これがうまくいかないと、ある者は不登校になり、ある者はいじめに発展し、ある者は学力格差に陥ります。
学習がわからない子供たちが増えれば学級崩壊、授業崩壊になり､そして､学習意欲や学習規律が低下し、或いは非行問題行動に走ってしまいます。
つまり、学力を付けて、授業が楽しくて、学びたいという教室になれば問題はすごく減るんです。周りの問題が減っちゃうんですよ。授業改善や学級経営に、教員のエネルギーをすごく使った方がいいんじゃない

かなと。何のための学習規律？　楽しい授業をもっと楽しくするために、学習規律ってきちんとやるんでしょ。学ぶってこんなに素晴らしいんだということを、もっと発展させるために生活規律なり学習規律なりをきちんとしていくんです。多分そういう発想の先生は意外に少ないと思います。大前提に、まず、面白い授業、楽しい授業、わかる授業、へえ、そぅだったんだっていう授業をすれば学習規律も生活規律も同時に伸びていくはずです。学習規律や生活規律を最初から整えてから授業やるとなると、半分以上失敗しますね。

実は、教室に集まった子供たちには、４種類の子供がいます。①もう、先生が持ってきた教材なんて知っちゃっている子。②まあまあわかって、今日はこんな勉強をするのか、大体わかる子。③えっと、えっと、今日の大事な所はここかなくらいで何をやっているのかわかっているけど、まだ全部は理解していない子。④何を言っているのかわからない子。もし、教師の指導が真ん中の２番目に焦点を当てて授業をしたらどうなるか。１番目の子はつまんないでしょう。わかり切っちゃっているから。３番目の子は、うーんと時間がかかっちゃう。４番目の子は、あーと言って座っているわけ。これは、先生が一人でやるとですよ。教師一人で格差のある多様で多人数の子にどう指導するか。

ここに、皆さん悩んでいるんじゃないですか。ここを改善すれば働き方改革なんですよ。そこで、子供たちを使うんですよ。１番の子がいるんでしょ。３番の子もいるんでしょ。４番の子もいるんです。組み合わせればいいじゃないですか。能力別が失敗しちゃうのは、学習意欲が育たないからですよ。同じような子を集めると発想が同じようになっちゃう。４番目の下位のグループの子たちを集めて丁寧に教えても、結局、周りは下位の子で、下位同士の発想しから抜け出せないんですよ。混在してわからない子にわかる子が教えるっていうのは、できない子にとってはいいことですし、できる子にとっては理解がとっても進むんです。教えて初めて自分がわかったということになるんですよ。そのような実験結果はたくさんあるんですね。先生は、何も最初から最後まで一人で全部やることはないんですよ。そんなの４・５人のグループをいっぱい作れば、子供たち同士でやれるんじゃないですか。だから常識を疑ってみてくださいということです。

９　常識を疑ってみては？

①ドリル学習は学ぶ力を伸ばすか？

これは、いろいろな学習心理とか学習科学で明らかですが、期待するほどは伸ばしません。何故か。ドリル学習というのは、結局、自学習なんです。できない子は永遠にできない。できる子はすっとできちゃう。ドリルをみんなで使うのは別ですよ。ドリルの何ページの何番を何々君と何々さんと何々さん、今日はこの４人のグループで全員がわかるまでやってみてというドリルの使い方ならいいんです。

②定期テストで学力が測れるか？

定期テストは、ある時点のある範囲のテストをするだけでしょ。１週間たったら、皆さんも経験あるでしょ。自分が学生の頃、ワーと覚えてガーと勉強して、１か月経って同じ問題をやって全部できますか？できないでしょ。人間の脳はそんなふうになっていませんから。学力は定期テストでは測れません。

③一つの学級を一人の担任に任せた方が子供は伸びるか？

これは、絶対に伸びません。子供たちの個性もバラバラ、先生の個性もバラバラ。教師集団というのは個性的な集団ですから、できるだけ多くの教員が多くの子供たちと出会う場面を作った方が、子供たちは伸びるんです。相性のいい先生と子供が会えば担任は当たりなんです。４月のクラス発表の午後、お母さん方のラインを見てください。「今年は外れ」「今年は当たり」「もう我慢しなくちゃ」「うち、塾に入れなくちゃ」あれ、わかっているのに何故やるのかなと、僕、不思議に思うんですけど。極端なことを言えば、クラスやめちゃえばと。安原は、月曜日は１組に出て、火曜日は２組に出て、水曜日は３組に出ます。そして、「１組の人とは､木曜日に会いましょう｣って言って、ローテーションにしたら、僕と馬の合わない子供たちは、木曜日まで大丈夫だと思うでしょう。親も混乱するじゃないですか、「誰が担任なのよ」って、みんな担任。当たり外れがないってことになるんです。そういう常識、学校では常識ではないんでしょうけど、そういうものを作っていけば、働き方改革、もしかしたらうまくいくかもしれません。

先生方に言ってください。今の小学校１年生の 20 年後、26 歳ですよ。中学校３年生は、20 年後 35 歳、30 年後 45 歳ですよ。社会人の真っただ中です。どん

な社会になっていると思います？　すごい社会になっていますよ。そういう社会で生きていく力を小中の時に付けてあげなければいけない。先生方が本気でそう思っているかどうか。世界情勢がどうなっているか。グローバル・多文化・多言語、国内社会・国際社会、今と同じでしょうか。もっと、ポピュリズムになっているかもしれない。逆に、開ければ日本語、フランス語、ドイツ語が飛び交っているかもしれない。先生方が生きてきた時代とは違い、少子高齢を突き抜けて、人口減少社会になって、家族や世代環境は全く違うはずです。多分、15 年から 20 年の間に３人に一人は単身で暮らしていますからね。もう、家族なんて相手にできませんからね。家族は形だけですから。みんなバラバラにネットワークが繋がっていますからね。家族という概念が変わると言われています。今のような父親・母親・子供という核家族ですが、今から 50 年前は大家族だったわけですからね。世の中、あっという間に核家族となり、今は単身家族なんでしょ。或いは、ホテル家族と言われたり。朝食だけ集まって、昼・夜はバラバラですから。それぞれのネットワークで楽しく過ごすしかないわけです。

先生が彼らと今学んでいること、本当に生きますかね。30 年後はどんな仕事でしょう。AI でしょ。IOT でしょ。感情労働が人間の主体になるんでしょ。要は、人と人との感情をやりとりするような仕事、人間にしかできないような仕事が入ってくるわけですよ。

コミュニケーション能力って何で大事かって。人と誰とでも話す。誰とでもできるという意味なんですよ。だから、学力って何かといったら、３つでしょうね。

基礎的・基本的な知識は大事でしょうね。読み書きそろばん程度でいいんですよ。読めなくちゃだめですよ。書けなきゃ駄目。計算はできなきゃ駄目。これはね、中学校の先生はよくわかっていると思いますけど、小学校でこの読み書きそろばんでつまずいた子は、中学校で、ほとんど非行問題行動か不登校になります。

残り２つの学力がこれから求められるんでしょ。

感情労働には、思考力・判断力・表現力・学びに向かう力。これが何かというのは、先生方みんなで話し合ってみてください。最初に言いました。聖職意識が専門職集団意識にならなければ駄目です。何でも先生がやる。人生を背負っているぞ。お前の為に夜も寝ない。『これが青春だ』は、もうないんです。

そうじゃなくて、20 年後・30 年後を見据えて、今君に大事なのは、この力だ。こういうことだ、「じゃ、先生は、7 時間 45 分が終わったんで帰るよ。」そういう専門職集団を作るしかない。

学校大好き、授業大好き、友達大好きといじめ、不登校、非行、無気力、無関心、学校へのクレーム、この根底は何だと思います？　やはり、授業がわからないということです。つまらない、恥ずかしい。だから、「わからない」って平気で誰もが言えて、解決できるクラスを作ったら非行問題行動は起きない。いじめも起きない。ある子が「わかんない」と言ったときに、「それはね、こうやってやるんだよ」って、小学校１年生の時から作っていれば、中学３年生まで、仲良くなるのは決まっているじゃないですか。家でわからないことがあっても学校で聞こうと思うから。みんなが教えてくれる、平気で「わからない」と言えるクラスを作ったらクラスが勝ちですね。先生、楽だと思いますよ。だって、自分で教えなくていいんだもん。周りが教え合うから。「じゃねえ、今日は江戸時代の勉強をするんだけど、この３つの言葉、先生わかんないんだな。みんなわかる？ちょっと勉強してくれる？教科書使って」と言えば、ワーと始まって、先生はチェックしていればいいわけです。いいと思いますよ。是非、新しい学園ドラマを作ってください。

10　さて、あなたの学校は　どこからはじめますか？

教員の本来の仕事は何か。原点に帰ってみてください。１日、６時間何をやっているんですか。一番時間を使っているのは何なんですか。

それから、これ注意してくださいね。「子供のためなら、子供のために」、この麻薬にみんな引っかかっちゃう。専門職集団は、子供の何を伸ばすんですか？子供にどんな力を付けるのかって、ゴールをちゃんと決めるんです。青春ドラマは、みんな子供のためですからね。子供のためならブラックになっていたんです金八先生も。新しい令和の先生は、子供の何を伸ばすのか。どんな力を付けるのか。それを決めてからやればいいんです。あれもこれもやっては駄目なんです。

それから、教員免許状を持つ者しかできないことは、授業でしょ。教員免許状を持っている意味を考えてみてください。子供たちが過ごす学校生活の８割を占めるのは教室と授業ですから。

目指す改革改善は、授業に始まり授業で終わる。

キーワードは、「わからない」です。「わからない」を利用するんです。一人じゃなくてみんなで授業について語り合うことから働き方改革が始まる。語り合う職場にしていきましょう。

学校の一番の役割は何でしょうか？ということで、これからは、わが校の教員たちが、最もエネルギーを注ぐべきものは何かということを焦点化して頑張っていただければと思います。

ご清聴、ありがとうございました。